

本学における「基督教社会福祉」科目の 取り組みについて

坂本 道子

聖隷クリストファー大学 社会福祉学部こども教育福祉学科

Education of “Christian Social Work” in Seirei Christopher University

Michiko SAKAMOTO

キーワード：基督教社会福祉、社会福祉士養成、福祉マインド、カリキュラム、ディアコニア

Key words : Christian Social Work, Education of Social Work, Mind of Social Work, Curriculum, diakonia

はじめに

本学は「隣人愛」を建学の精神とするキリスト教主義の大学で、2002年度から社会福祉士養成教育を行っている。ところで、全国に本学と同様のキリスト教主義大学で社会福祉士養成校は何校あるのだろうか。2015年度の日本社会福祉士養成校協会（以下「社養協」と略す）のリスト¹では、全国に社会福祉士養成校は263校ある。そのうち大学は189校である。大学の他、養成校（50校）や短期大学（9校）、専修学校（15校）がある（表1）。その中で、キリスト教主義の大学を「日本カトリック学校連合会」²によって調べてみよう。ここに名前を連ねるカトリック大学は全国で18校。そのうち社養協リストにも名前を連ねているのは7校である³。

プロテスタント系の大学は「キリスト教学校教育同盟」⁴のリストを見ると、2015年7月1日現在全国で56大学である。このうち同様に社養協リストに掲載されているのは24校である（表1参照）。つまり全国の社会福祉士養成の大学の内7校+24校=31校（16.4%）がキリスト教主義の大学教育を掲げて社会福祉士の養成を行っているということになる。

日本においてキリスト教主義の学校での福祉教育は、多くのワーカーを養成してきた。キリスト教社会福祉学会では、長い間、クリスチャンワーカーの使命、価値、課題が議論されてきた⁵。施設で求められるクリスチャンワーカー像の調査⁶や、またその養成教育の実態調査⁷も行われた。

この中で、施設の現場では当時キリスト教社会福祉学会会長だった岡本榮一（2005）が「つねづねキリスト教主義に立った施設では、その運営や管理面においてキリスト教精神を基本に

して理念を確立すること、しかもその継承が大変重要だと思うようになった。つまり、バトンタッチの問題である。創設者だけで終わらせない経営理念、ポリシーの確立と継承である」⁸と指摘するように、創設者のキリスト教精神の継承が課題となった。

一方、教育現場では、新野（2014）が指摘するように、社会福祉士など、「専門職資格制度が誕生してからは、国が定めた方針やカリキュラムに縛られざるを得ないディレンマも経験」⁹している。教育現場でも、キリスト教主義の大学の特色を出して専門職者養成をしていくことが困難な状況に追いやられているという。

このような状況の中、本学では、2002年の社会福祉学部開学以来「キリスト教社会福祉」という科目を、後述のように3年生または4年生の必修科目として設定してきた。ところが2013年度のカリキュラムの変更により2年生の選択科目へと変更になり、今年度をもって卒業前の4年生の全員必修としての役割を終えることとなった。

これを機に、本論では、本学で実施してきた「キリスト教社会福祉」の科目の内容を振り返り、キリスト教主義の社会福祉大学における「キリスト教社会福祉」科目の意義と役割について考察することを目的とする。その方法として、第一にキリスト教主義である本学及び本学部の基本姿勢と、カリキュラム構成を明らかにする。第二にシラバスによって今までの科目の変遷を明らかにする。第三に2014年度の授業展開例を紹介する。第四に2014年度の期末テストにおける学生の記述を分析する。第五にこれらをまとめて、キリスト教主義の大学における「キリスト教社会福祉」の科目の意義と役割について考察を深める。

表 1 2015 年度社会福祉養成校

20160105調べ

	社会福祉士養成校協会	養成施設Y	短期大学T	専修学校S	大学D	カトリックの養成大学	プロテスタントの養成大学
北海道	12	2			10	藤女子	北星学園
青森県	4				4		弘前学院
岩手県	2			1			
宮城県	5	1			4	仙台白百合	宮城学院女子
秋田県	1				1		
山形県	1				1		
福島県	6	1	1		4		
茨城県	5				5		茨城キリスト教
栃木県	5		2	2	1		
群馬県	5	2			3		
埼玉県	12	1			11		立教 聖学院
千葉県	6	1			5		
東京都	35	9	1		25	上智	桜美林 明治学院 ルーテル学院
神奈川県	11	3		2	6		関東学院
新潟県	7	2			5		敬和学園
山梨県	3				3		
長野県	2				2		
富山県	3		1		2		
石川県	3				3		北陸学院
岐阜県	3				3		中部学院
静岡県	5		1	1	3		静岡英和学院 聖隷クリストファー
愛知県	11	4			7		金城学院
三重県	3		1		2		
福井県	1				1		
滋賀県	3	1			2		
京都府	15	3	1		11	京都ノートルダム女子	同志社
大阪府	17	6		2	9		桃山学院
兵庫県	12	1			11		関西学院 神戸学院
奈良県	2		1		1		
和歌山県	1	1					
島根県	1				1		
鳥取県	0						
岡山県	6			1	5	ノートルダム清心女子	
広島県	10	3		1	6		
山口県	5	1			4		
徳島県	2				2		
香川県	1				1		四国学院
愛媛県	5	1		1	3	聖カタリナ	松山東雲女子
高知県	1				1		
福岡県	12	3		2	7		西南学院 西南女子学院
佐賀県	2	1			1		
長崎県	3				3		長崎純心
熊本県	5	1		2	2		
大分県	4	1			3		
宮崎県	2	1			1		
鹿児島県	1				1		
沖縄県	2				2		
計	263	50	9	15	189	7	24

1. 本学の基本理念

1) 本学社会福祉学部の前身

社会福祉学部は2002年に開設された。その前身の歴史は1949(昭和24)年の各種学校「遠州基督学園」を礎としている。その後、准看護婦養成所(1952)、ディアコニー学校¹⁰、学校法人聖隷学園及び高等学校衛生看護科(1966)、浜松衛生短期大学(1969)、福祉医療ヘルパー学園(1978)、介護福祉専門学校(1988)、看護大学(1992)を経ている。こうして、2002年に介護福祉専門学校を発展的に解消し、社会福祉学部が増設され、聖隷クリストファー大学となった。筆者は開設時メンバーの一人である。2004年にはリハビリテーション学部や社会福祉学研究科の大学院も開設し、現在は博士課程後期の大学院も併設する総合大学として保健医療福祉の従事者養成を行っている。

2) 学則にみるキリスト教教育

本学はキリスト教主義の大学である。学則第1条には「本学は、キリスト教精神による生命の尊厳と隣人愛に基づき人格を陶冶すると共に、広い知識と深い専門の学芸を教授・研究し、保健医療福祉分野の看護、リハビリテーション及び福祉の専門職業人を育成して、人類の健康と福祉に寄与することを目的とする。」と掲げている。

3) 社会福祉学部の教育目的・目標

社会福祉学部の教育目的・目標は履修要項に明示されている。その表記は、2009年を境に、若干の変化がある(変化の部分を筆者が下線)。

① 2002年度～2008年度

目的・目標の項目は、次のように記載されている。

「社会福祉学部は聖書に示す人間愛と隣人愛に基づき、私たち一人ひとりが人間としての尊厳を守り合い、かけがえのない存在として認め合って、幸せな社会を築いていこうとする意欲に燃えて行動する社会福祉専門職を養成します。即ち、日々変化する社会の動きを敏感に受けとめ、そこに創出される生活問題解決の担い手として、社会福祉に関する専門知識や専門技術及び他者に共感する感性を学び、社会福祉実践者として成長していくことを目指しています。そのための具体的な教育目標は以下の通りです。

- (1) 聖書に示された人間観を養います。
- (2) 他者との全人格的な人間関係を深めることができる隣人愛に根ざした態度を養います。
- (3) 福祉援助を必要とする人々の課題を、科学的、論理的に理解し、それを解決するために計画、実践し、また評価する能力を養います。
- (4) 福祉専門職としての自己啓発能力を養います。
- (5) 保健・医療分野における福祉専門職の役割を認識し、その責務を果たしえる能力を養います。
- (6) 多様な文化や価値観を受容し、国際的視野をもって、国内だけでなく海外においても社会福祉実践ができる能力を養います。」¹¹

2006年度から書名が『COLLEGE』から『UNIVERSITY』に変わったものの、文面は2008年度まで、同一である。

② 2009年度～2015年度現在

文面が、以下のように若干変化し、目標も(1)と(2)が合体し、5項目となった。

「社会福祉学部は、大学教育の理念にもとづ

いて、日々変化する社会の動きを敏感に受けとめ、生活上の困難を抱える人々の自立および生活の質の向上を援助する担い手として、社会福祉に関する専門知識や専門技術および専門倫理を学び、生涯にわたり成長する福祉専門職としての基盤を培うことを目指しています。そのため具体的な教育目標は以下のとおりです。

- (1) キリスト教精神による「生命の尊厳と隣人愛」に基づいた人間性の涵養を図ります。
- (2) 福祉援助を必要とする人々を深く理解するとともに、その生活課題を科学的、論理的に分析し、解決するための基礎的な能力を養います。
- (3) 福祉専門職としての自己啓発能力と実践能力を養います。
- (4) 保健医療福祉の分野における関係職種と協働する福祉専門職の役割を認識し、その責務を果たすことのできる能力を養います。
- (5) 多様な文化や価値観を受容し、国際的視野をもって実践できる能力を養います。」¹²

4) カリキュラム構成

本学では、3学部共通の「基礎科目」のなかに「聖隷の精神とキリスト教」という群を設定し、次の5科目のなかから全学部の学生が一定単位以上を履修することが義務づけられている。その科目は「聖隷事業の理念と歴史」「キリスト教概論」「キリスト教人間論」「キリスト教の歴史」「キリスト教倫理」である。

このほかに、社会福祉学部では「キリスト教社会福祉」という科目を設定してきた。また、本学部では社会福祉士の養成のみでなく、保育士・幼稚園教諭・介護福祉士・精神社会福祉士等の養成も行っている。しかし、本稿では、現

在では学部内3学科で共通して行っている社会福祉士養成に限定して論を進めていく。

2. 「キリスト教社会福祉」科目の経緯

1) カリキュラム上の科目配置の推移 (図1)

「キリスト教社会福祉」(以下「本科目」と省略す)は、カリキュラム改定等により、科目配置時期は次の4つに分けられる。

①2002年開設～完成年度(2006)のカリキュラム改訂前(2005年度)まで

2002年の開設時には、本科目は4年生春必修科目として設定されていた。

②2006年度完成年度改訂～2009年社会福祉士カリキュラム改訂前(2008年度)まで

完成年度である2006年度のカリキュラム改訂により、3年生秋必修科目に変更された。

③2009年度社会福祉士カリキュラム改訂～2013年度改訂前(2012年度)まで

厚生労働省の社会福祉士カリキュラム改訂を受け、本学でも2009年度から科目名称や学年配置など、大幅な改訂が行われた。本科目は4年間の「学びのまとめ」として、4年生秋期に必修科目として位置づけられた。

④2013年度改訂～2015年度以降

2013年度の臨床介護福祉学科から介護福祉学科への改組をもとにカリキュラム改訂が行われ、本科目は2年生春期選択科目となった。こども教育福祉学科には、本科目のほか「キリスト教保育」という科目が設定され、卒業までに本科目とどちらかを2単位選択することとなった。今後、この縛りが2016年度卒業生まで続くが、2016年度社会福祉学科のスクールソーシャルワーカー養成課程に伴うカリキュラム改訂によって、現行のカリキュラムと年度配置が決定された。したがって、さらに4年、2020

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	実質開講
2002年度入学 4年春必修	1															
2003 4年春必修	2	1														
2004 4年春必修	3	2	1													
2005 4年春必修	④	3	2	1												4年春必修
2006 3年秋必修		④	3	2	1											4年春必修
2007 3年秋必修			④	3	2	1										4年春必修
2008 3年秋必修				④	③	2	1									4年春必修3年秋必修
2009 4年秋必修					4	③	2	1								3年秋必修
2010 4年秋必修						4	③	2	1							3年秋必修
2011 4年秋必修							4	3	2	1						
2012 4年秋必修								④	3	2	1					4年秋必修
2013 2年秋選択									④	3	2	1				4年秋必修
2014 2年秋選択										④	3	②	1			4年秋必修2年秋選択
2015 2年秋選択											④	3	②	1		4年秋必修2年秋選択
2016 2年秋選択												4	3	②	1年	2年秋選択
2017 2年秋選択													4	3	②	2年秋選択
2018 2年秋選択														4	3年	2年秋選択
2019 2年秋選択															4年	2年秋選択
2020 2年秋選択																2年秋選択

図1 入学年度と「キリスト教社会福祉」開講学年の関係

年まで、本科目は原則「2年生春選択科目」という位置づけに固定されることとなった。

2) 実際の開講状況とシラバス

4年次必修科目が実際に開講されるのは、入学年度から4年後、3年次必修は入学年度から3年後と、実際の年度とはズレが生じる。図1は入学年度と各学年の移行を表したもので、開講該当学年に○がついている。これを時期区分すると次のようになる。シラバスは表2参照。

① 2002年度～2004年度 実質開講せず

2002年から2004年までの3年間は、3年生までの学年しかおらず、シラバスも教育概要を簡単に記すのみであった。

② 2005年度～2008年度春 4年生春必修

4年生春必修授業は実質2005年度から始まり、2006年度入学生が4年生になるまでの4年間の2008年まで行われた。内容は、聖隷事業団元理事長の長谷川力と本学元教員山本誠を中心に、基本的な知識と精神を学んだ後、学生は聖隷福祉事業団にかかわった従事者の聞き取り調査を行い、発表するという形であった。筆者は調査方法やディアコニッセの聞き取り事例について講義した。2007年～2008年は本学元

教員志村健一も加わり、さらに調査方法の学びと報告方法を充実した。

③ 2008年度秋～2010年度 3年生秋必修

2008年度秋から2010年度秋までの3年間、3年次必修授業が行われた。2008年度の春は、前述の4年生の授業、秋は3年生の授業が開講された。2009年から2010年は3年生秋のみの授業が展開された。3年生に対する授業は今までの4年生の授業と同様、インタビューを中心に展開していた。

④ 2011年度 実質開講せず

2011年度は、図1によってわかるように、3年生必修と4年生必修の移行期となり、シラバスに従来のインタビュー方式の展開は記載されているものの、授業は開講されなかった。

⑤ 2012年度～2013年度

2009年度改訂により、4年生秋必修に位置づけられた本科目を、2012年から2年間、筆者が一人で担当した。シラバスを大幅に改訂し、テキストとして用いた室田保夫『人物で読む近代日本社会福祉のあゆみ』⁸に掲載されている30人(後述)の人物に触れようとした。が、DVDなどの使用により、予定と大幅にずれ、実際は10名程度の人物史を学ぶにとどまった。

⑥ 2014年度～2015年度

本学教員村田哲康と筆者の二人で4年生秋必修授業と2年生秋選択科目を2年間担当した。テキストと同時に『知っているつもり』のビデオやDVDなども使用し、シラバスのように対

象人物を9名に絞って授業展開した。

4年生必修授業の履修者数は、学部全員なので毎年、100名～130名が受講した。2年生で選択履修した学生は2014年度5名、2015年度1名であった。

表2 聖隷クリストファー大学社会福祉学部における「キリスト教社会福祉」シラバスの変遷

入学年度 シラバス	開講時期	単位・必修	科目責任者	科目担当者	授業概要	教育目標	授業計画	テキスト・指定図書 事前・事後学習
2002年度	7セメスター	30時間必修2			本講義では内外におけるキリスト教社会福祉の歴史をたどり、社会福祉の形成に重要な役割を果たしたキリスト者たちを中心に講義していく。また、社会福祉の領域に限定せず、幅広く女性史、教育史、医療の歴史、社会史等の周辺についても対象としていく。			
2003年度	7セメスター	30時間必修2			本講義では内外におけるキリスト教社会福祉の歴史をたどり、社会福祉の形成に重要な役割を果たしたキリスト者たちを中心に講義していく。そしてキリスト教社会福祉事業の現状を概観し、今後の課題について考えていく。また、社会福祉の領域にのみ限定せず幅広く女性史、教育史、医療の歴史、社会史等の周辺についても対象としていく。			
2004年度	7セメスター	30時間必修2	2004年度開講せず		同上			
2005年度	7セメスター(4年生春)	30時間必修2	長谷川カ	長谷川カ	本講義では国内外におけるキリスト教社会福祉の歴史をたどり、社会福祉の形成に重要な役割を果たしたキリスト教社会福祉実践者の足跡を概観し、社会福祉実践活動として、最も大切なものは何であるかを学ぶ。特に聖隷集団をつくりあげたキリスト者に出会い、その生きた証言を聞きながら社会福祉活動を支える理念と価値を学習する。		1回: 聖隷の歴史にみるキリスト教の姿 2回: 社会福祉実践の中におけるキリスト教の役割 3回: キリスト教社会福祉における価値 4回: キリスト教社会福祉実践者の歩みから①留岡幸助 5回: 〃 ②ハニ姉妹 6回: グループワーク (108名～9名かける12から13グループ)大学周辺に居住しておられる聖隷集団の社会福祉実践者をインタビューする(6週間) 7回～10回: 1コマ3～4グループ発表(4コマ) 11回: 地域社会における聖隷福祉事業団の使命 12回: 現代社会におけるキリスト教社会福祉の使命 13回: まとめ	
2006年度	7セメスター	30時間必修2	長谷川カ	長谷川カ 山本誠 坂本道子	同上		同上	
2007年度	7セメスター(4年生春)	30時間必修2	山本誠	長谷川カ 山本誠 坂本道子 志村健一	同上		第1回: 聖隷の歴史・福祉実践に示されたキリスト教 第2回: 社会福祉実践の中におけるキリスト教社会福祉の役割 第3回: 聞き取り調査の方法について 第4回: 聞き取り調査の実際: ティアコニアの実践録 第5回: キリスト教社会福祉における価値 第6回: グループ分け (学生が8名くらいづつ、12グループに分かれて、聖隷集団の中で社会福祉実践してきているクリスチャンの先輩たちを訪問し、インタビューをして、先輩たちの考え方を認識して、自分たちの感想と考えを議論し合う) 第7回～第10回: グループ発表 第11回: 地域社会における聖隷福祉事業団の使命 第12回: これからの社会におけるキリスト教社会福祉の使命	テキスト: 長谷川カ『その道を歩むならば』中央法規 + 授業時に販売
2008年度	6セメスター(3年生・2008年度生) 7セメスター(4年生・2005年度生)	30時間必修2	山本誠	長谷川カ 山本誠 坂本道子 志村健一	同上		第1回: 聖隷の歴史・福祉実践に示されたキリスト教 具体的事例にみるキリスト教の役割 第2回: 社会福祉実践の中におけるキリスト教社会福祉の役割 第3回: 聞き取り調査の方法について 第4回: 聞き取り調査の実際: ティアコニアの実践録 第5回: キリスト教社会福祉における価値 第6回: グループ分け (学生が8名くらいづつ、12グループに分かれて、聖隷集団の中で社会福祉実践してきているクリスチャンの先輩たちを訪問し、インタビューをして、先輩たちの考え方を認識して、自分たちの感想と考えを議論し合う) 第7回～第13回: グループ発表 第14回: 地域社会における聖隷福祉事業団の使命 第15回: これからの社会におけるキリスト教社会福祉の使命	同上
2009年度	6セメスター(3年生)	30時間必修2	山本誠	長谷川カ 山本誠 坂本道子	同上		第1回: 聖隷の歴史・福祉実践に示されたキリスト教 第2回: 社会福祉実践の中におけるキリスト教社会福祉の役割 第3回: 聞き取り調査の方法について 第4回: 聞き取り調査の実際 第5回: キリスト教社会福祉における価値 第6回: グループ分け (学生が8名くらいづつ、13グループに分かれて、聖隷集団の中で社会福祉実践してきているクリスチャンの先輩たちを訪問し、インタビューをして、先輩たちの考え方を認識して、自分たちの感想と考えを議論し合う)	特になし
2010年度	8セメスター(4年生)	30時間必修2	山本誠	長谷川カ 山本誠 坂本道子	同上		同上	必要に応じて紹介します。 備考(履修上の注意、メッセージ等): 本学での社会福祉の学びのまとめとなる授業です。聖隷グループの社会福祉実践、キリスト教を土台とした社会福祉実践の様々な側面を、現場で働く人から直接聞かせていただきます。自らのこれまでの学びを整理する機会になることと思います
2011年度	8セメスター(4年生)	30時間必修2	山本誠		(半ページ) 同上		1から5. は 同上 6. グループ学習(インタビューの準備) 7. グループ学習(インタビューの準備) 8. グループ学習(インタビュー、発表準備) 9. グループ学習(発表準備) 10. グループ学習(発表準備) 11. グループ発表 12. グループ発表 13. グループ発表 14,15は前年度と同じ	同上
2012年度	8セメスター(4年生)	30時間必修2	坂本道子		本講義では、これまでの社会福祉の学びを振り返りつつ、日本の社会福祉形成に重要な役割を果たしたキリスト教社会福祉実践者、あるいは強い使命感をもって実践した人々の生き様を学ぶ。これを通して、人間の「多様性」を尊重・共感する態度を具体的に習得し、人や社会に協調できる共生の価値観を涵養する。	1. 今までの学習を通して理解した、人間の「多様性」を踏まえ、共生の価値観をもつ。 2. その価値観を土台として、受容的・共感的態度をもつ、人や社会と協調できる。	第1回: はじめにー社会福祉の歴史と人物史 第2回: 慈善・救済事業の時代① 岩永キキ、石井十次、矢嶋福子 第3回: 慈善・救済事業の時代② 福山徳之助、原南助、石井亮一 第4回: 慈善・救済事業の時代③ 野口蘭香、留岡幸助、片山潜 第5回: 慈善・救済事業の時代④ 奥村多喜衛、岩田民次郎、小橋実之助 第6回: 慈善・救済事業の時代⑤ 井上友一、沢尻栄一、山室肇平 第7回: 慈善・救済事業の時代のまとめと小テスト、社会事業・社会福祉の時代背景 第8回: 社会事業・社会福祉の時代① 渡辺海旭、八浜徳三郎、久白白滝実 第9回: 社会事業・社会福祉の時代② 生江幸之、小河滋次郎、山田わか 第10回: 社会事業・社会福祉の時代③ 長谷川良俊、栗川重康、佐佐木正 第11回: 社会事業・社会福祉の時代④ 奥むねお、井原八重、岩橋武夫 第12回: 社会事業・社会福祉の時代⑤ 田内千鶴子、深沢ふさ、永賀一雄 第13回: 社会事業・社会福祉の時代のまとめと小テスト 第14回: カトリック聖職者の社会事業・社会福祉	指定図書: 室田保夫2006『人物で読む近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房
2013年度	4セメスター(2年生)	30時間選択2	坂本道子	同上	同上	同上	同上	同上
	8セメスター(4年生)	30時間必修2	坂本道子	同上	同上	同上	同上	同上

2014年度	4セメスター(2年秋)	30時間選択2	坂本道子・村田哲康	坂本道子・村田哲康	同上	同上	1)はじめに—キリスト教社会福祉における人物史研究の視点 坂本 2)石井十次の生涯と慈善・救済事業① 坂本 3)石井十次の生涯と慈善・救済事業② 村田・坂本 4)石井亮一の生涯と慈善・救済事業① 坂本 5)石井亮一の生涯と慈善・救済事業② 坂本 6)留岡幸助の生涯と慈善・救済事業① 坂本 7)留岡幸助の生涯と慈善・救済事業② 村田・坂本 8)貫川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動① 坂本 9)貫川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動② 村田・坂本 10)井深八重の生涯と社会福祉活動① 坂本 11)井深八重の生涯と社会福祉活動② 村田・坂本 12)田内千鶴子・久布白落実の生涯と福祉活動① 坂本 13)田内千鶴子・久布白落実の生涯と福祉活動② 村田・坂本 14)糸賀一雄の生涯と福祉活動① 坂本 15)糸賀一雄の生涯と福祉活動② まとめ—対人援助の根拠思想としての「ディアコニア」 村田・坂本	指定図書:室田保夫 同上 事前・事後学修:事前学修において、テキストを少なくとも一度は読み、それぞれの人物の「生い立ち」や「行ったこと」について理解しておくこと。事後学修では、知識を定着させるために、さらにテキストを熟読すること
	8セメスター(4年秋)	30時間必修2	坂本道子・村田哲康	坂本道子・村田哲康	同上	同上	1)10月1日 初めに—キリスト教社会福祉の歴史と人物史研究 坂本・村田 2)10月8日 岩永マキ 坂本 3)10月15日 石井十次① 坂本 4)10月15日 石井十次② 坂本・村田 5)10月22日 留岡幸助① 坂本 6)10月22日 留岡幸助② 坂本・村田 7)10月29日 野口蘭香(小テスト) 坂本 8)11月5日 久布白落実 坂本 9)11月12日 山田わか 坂本 10)11月19日 貫川豊彦① 村田・(坂本) 11)11月19日 貫川豊彦② 村田・(坂本) 12)11月26日 井深八重① (坂本)→村田 13)11月26日 井深八重② 村田・(坂本) 14)12月3日 糸賀一雄① (坂本)→村田 15)12月10日 糸賀一雄② 李とめ 村田・(坂本) 11月29日:はじめに—キリスト教社会福祉の歴史と人物史研究・石井十次 坂本 2)10月6日:石井十次の生涯と慈善・救済事業② 村田・坂本 3)10月13日:石井亮一の生涯と慈善・救済事業① 坂本 4)10月13日:石井亮一の生涯と慈善・救済事業② 坂本 5)10月27日:野口蘭香・山田わか の生涯と慈善・救済事業 坂本 6)11月3日3限:留岡幸助の生涯と慈善・救済事業① 坂本 7)11月3日4限:留岡幸助の生涯と慈善・救済事業② 村田・坂本 8)11月10日:田内千鶴子・久布白落実の生涯と慈善・救済事業 村田・坂本 9)11月17日:貫川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動① 坂本 10)11月24日:貫川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動② 村田・坂本 11)11月30日:井深八重の生涯と社会福祉活動① 坂本 12)12月1日:井深八重の生涯と社会福祉活動② 村田・坂本 13)12月7日:糸賀一雄の生涯と福祉活動① 坂本 14)12月8日:糸賀一雄の生涯と福祉活動② 村田・坂本 15)12月14日:まとめ—対人援助の根拠思想としての「ディアコニア」 村田・坂本	同上 備考:国試対策も含めて授業展開する
2015年	4セメスター(2年秋)	30時間選択2	坂本道子・村田哲康	坂本道子・村田哲康	同上。受講者数によっては演習形式で進めることもある。	同上	1)はじめに—キリスト教社会福祉における人物史研究の視点 坂本 2)石井十次の生涯と慈善・救済事業① 坂本 3)石井十次の生涯と慈善・救済事業② 村田・坂本 4)石井亮一の生涯と慈善・救済事業① 坂本 5)石井亮一の生涯と慈善・救済事業② 坂本 6)留岡幸助の生涯と慈善・救済事業① 坂本 7)留岡幸助の生涯と慈善・救済事業② 村田・坂本 8)貫川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動① 坂本 9)貫川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動② 村田・坂本 10)井深八重の生涯と社会福祉活動① 坂本 11)井深八重の生涯と社会福祉活動② 村田・坂本 12)田内千鶴子・久布白落実の生涯と福祉活動① 坂本 13)田内千鶴子・久布白落実の生涯と福祉活動② 村田・坂本 14)糸賀一雄の生涯と福祉活動① 坂本 15)糸賀一雄の生涯と福祉活動② まとめ—対人援助の根拠思想としての「ディアコニア」 村田・坂本	同上
2015年	4セメスター(2年秋)	30時間選択2	坂本道子・村田哲康	坂本道子・村田哲康	同上	同上	1)はじめに—キリスト教社会福祉における人物史研究の視点 坂本 2)石井十次の生涯と慈善・救済事業① 坂本 3)石井十次の生涯と慈善・救済事業② 村田・坂本 4)石井亮一の生涯と慈善・救済事業① 坂本 5)石井亮一の生涯と慈善・救済事業② 坂本 6)留岡幸助の生涯と慈善・救済事業① 坂本 7)留岡幸助の生涯と慈善・救済事業② 村田・坂本 8)貫川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動① 坂本 9)貫川豊彦の生涯と社会事業・社会福祉活動② 村田・坂本 10)井深八重の生涯と社会福祉活動① 坂本 11)井深八重の生涯と社会福祉活動② 村田・坂本 12)田内千鶴子・久布白落実の生涯と福祉活動① 坂本 13)田内千鶴子・久布白落実の生涯と福祉活動② 村田・坂本 14)糸賀一雄の生涯と福祉活動① 坂本 15)糸賀一雄の生涯と福祉活動② まとめ—対人援助の根拠思想としての「ディアコニア」 村田・坂本	同上

3. 「キリスト教社会福祉」2014年度 の展開例——4年生必修授業

2015年度4年生への授業は終わったものの、国家試験終了後の定期試験中(2016年1月28日)に、最終的なレポート提出をさせる。したがって、まだ成果が見えないので、2014年度学生への授業展開を振り返ることで、その成果を考察したい。

1) 授業展開の実際

【第1回 はじめに——キリスト教社会福祉の歴史と人物史研究(村田・坂本講義)】

①シラバス配布:本科目の目的「キリスト教」「社会福祉」の繋がりを考える。これが4年間の学びのまとめになる。

②テキストに掲載されている30人の名前の資料を配布し、初回理解度を自己判定させる¹⁴。

このうち3分の4はクリスチャンである。そのほか、『シリーズ 福祉に生きる』大空社で出版されている人物一覧を提示。

③ 4年生必修で学ぶ意味

▼社会福祉の実践の多くは、クリスチャン達が制度のないところから、目の前の人に対応するところから始まっている。

▼キリスト教系の福祉大学を卒業するにあたって、それらの人々について知って卒業してほしい。

▼大学周辺にあるキリスト教主義施設に多くの学生が就職するにあたり、キリスト教社会福祉にかかわった人たちのことについて教養として知っていてほしい。

④ 歴史を学ぶ視座

▼横・縦・斜め

▼今→過去→今→未来(将来設計)

▼卒業・就職という節目に自分の過去、福祉

の過去を知り、将来の自分の人生設計に

⑤人物史を学ぶ意図ーテキスト序論参照

▼特にその人物が、どのような状況のなか、どのような困難が生じ、それをどのように乗り切ったのか、その意志、思いをくみとる

▼これから就職する自分と照らし合わせる。

⑥社会福祉従事者の3つの型

一番ヶ瀬康子(1973)「長谷川りつ子」五味百合子『社会事業に生きた女性たち』ドメス出版。まえがきおよびp. 265の「社会事業史での女性の三つのタイプ」、吉田久一「人物史について」p.297～p.304を印刷配布し、説明。

本来は多くの卒業生がそうである、「働か人」「無名の人」の声から学びたい。しかし、ほとんど記録がないので、テキストのように第1の創設者の活動から生きざまを見る。

⑦授業の約束

▼4年必修なので、欠席しない。

▼事前事後学修はしなくていい。授業に集中。

▼この科目が、国試対策にもなる。どうしても国試の勉強をしたいときはDVDの時OK

▼2コマ続きでお昼休み・食事休憩がなく授業をする時がある。その時はDVDの時間は食事をとりながらでOK

▼おしゃべりは厳禁

▼1月に国試の勉強ができるように、授業は12月中に終わるように配慮している。

【第2回 テキスト要約講義、岩永マキ】

①「はしがき」「序論」「第I部 慈恵・慈善事業 時代的背景」を要約講義

②「岩永マキ」について、学生が授業のなかで読み、要約をリアクションペーパー(以下「リアペ」と略す)にまとめる。

③岩永マキについて、解説

【第3・4回 石井十次 ①②】同日2コマ

①「石井十次」について、授業のなかでテキス

トを読み、リアペにまとめる。

②「知っているつもり」のDVD45分間

③解説

④リアペ記入(事実・感想・分析)

【第5・6回 留岡幸助 ①②】同日2コマ

①「留岡幸助」について学生まとめる

②「近代日本の求道者 留岡幸助」60分DVD

③解説④リアペ記入

【第7回 野口幽香・田内千鶴子】

①「野口幽香」について学生まとめる

②解説

③「田内千鶴子」について学生まとめる

④「知ってるつもり」DVD45分

⑤解説・リアペ記入

【第8回 久布白落実・石井筆子】

①「久布白落実」について学生まとめる

②解説

③「石井亮一」について学生まとめる

④『筆子その愛』DVD119分半分

⑤解説・リアペ記入

【第9回 石井筆子・山田わか】

①石井筆子のDVD続き

②解説・リアペ記入

③「山田わか」について学生まとめる

④解説・リアペ記入

【第10・11回 賀川豊彦①②】同日2コマ

①「賀川豊彦」について学生まとめる

②『死線を越えて』DVD125分

③解説・リアペ記入

【第12・13回 井深八重①②】同日2コマ

①「井深八重」について学生まとめる

②「知ってるつもり」DVD45分

③解説・リアペ記入

【第14・15回 糸賀一雄①②】

①「糸賀一雄」について学生まとめる

②「NHKスペシャル ラストメッセージ」こ

の子らを世の光に」DVD60分

③解説・リアペ記入

2) テスト問題の実際

【2014年度期末テスト問題】

2014年度の期末テストは60分で以下のとおりである。2013年度と2015年度は同じような内容でレポートとした。

「問1, 本日返却した自分のリアクションペーパー（15回分¹⁵）を見て、次の点について述べなさい。

- 1) 出欠状況 ①事実 ②感想 ③分析¹⁶
- 2) 授業への取り組み態度の変化
①事実 ②感想 ③分析
- 3) リアクションペーパーの内容の変化
①事実 ②感想 ③分析

4) 1年生（「ソーシャルワーク総論」）のレポート¹⁷と比較して ①事実 ②感想 ③分析

問2, 「キリスト教社会福祉」の授業を通して

- 1) あなたが学んだことについてまとめなさい
- 2) 学んだことを、今後就職してから、あるいはあなたの将来にどのようにつなげていこうとするのか、自分の考えをのべなさい
- 3) 授業・テストの感想等、坂本に伝えたいこと¹⁸

3) 学生の回答の分析——KJ法による見出しの抽出

学生の回答を書き出したところ、問1の内容と問2の内容に大きな差はなかった。例えば「問1の2. 授業の取り組み態度の変化」の内容が「問2の1. 学んだこと」や「問2の3. 感想」に書かれていることも多かった。そこで、学生の回答を問とは関係なく、KJ法によって分析した。すると、次の14の小見出しをつけることができた。その小見出しに該当する学生の文章を以下にあげる。なお文末の英文字は所属学科を示す。C；こども教育福祉学科、S；臨床

介護福祉学科、W；社会福祉学科である。

① 1年生との比較

●1年のころぼんやりと考えていたことも、今では自分の考え、意志として語れるものになっていると感じたし、そこは成長だなと考えた。C

●これまでのSWの授業があったからこそ、この授業が積み上げていけるのだと思う。1年からの学びが今につながっているのはとても面白いと思った。1年生のころは、自分の感じたことをアウトプットするようなものが多かった。キリスト教福祉では、その人物の歴史を振り返り、そこで自分のなかで噛み砕いて、まとめてアウトプットするというようなイメージだった。S

② 「自分」の振り返り、発見

●初回の方は、国試もあることだし、自分に必要な知識だけ吸収したらそれでよいと思っていたが、途中からすべてが必要なことだという気持ちに変化した。福祉の偉人について深く学ぶことで、自分の考えとの違いあるいは共通点を発見することができた。S

●このテストにはびっくりしましたが、ちゃんと授業を振り返るいい機会になったと思います。W

●大学に来て、自分とは何かを考えさせられるととてもいいきっかけになり、課題が見つかりました。S

③授業の意味

●この授業では、今まで知らなかった人物史を深くまで知ることができました。ただ〇〇をした人という事実だけでなく、その人がどのような気持ちで取り組んだかがわかり胸が熱くなりました。今までの授業を通して、この授業が最後のまとめとなったと思います。（中略）苦しいことがあれば、少し立ち止まって振り返る。そして、また新たな目標を持って進んでいけるよう、常に学ぶ姿勢をもって、取り組んでいきたいと思いません。C

④キリスト教へ疑問・抵抗→興味・感銘

●最初は、キリストと社会福祉のつながりがよくわからず、なぜこの科目が必修で、4年生の就職活動や卒業論文、国家試験の忙しい時期に開講されるのだろう

と疑問に思っていた。そのように思いながらも、初回の授業を受けて「社会福祉も同じように今までの理論や実践が今の福祉文化につながっていくため、しっかり学びたい」という感想をもった。授業の回数を重ねるたびに（中略）その人物が行った事業、その展開を知り学んでいくことがだんだんと楽しくなった。4年生になった今だからこそ学ぶべきものだったと、今は思う。C

●最初は、この授業は必要なのか、キリストに対してそんなに学びたいという気持ちは正直なかったのだが、キリストの福祉をやってきた人たちの熱い気持ちと素晴らしい活動を聞いて、そして学んでとても感銘を受けた。W

●私は“なんで社会福祉にキリスト？”という疑問を持っていたが、キリストの精神で人々を救っていて、精神のすごさを感じ、学ぶことができた。S

⑤人物を知ることが楽しい

●最初のころは書き写して終わりだったのに、人物についてよく学んでいくうちに「この人は前回の人物とどのようなつながりがあるのか」「キリスト教の精神のなかで大切にしている言葉はあるのか」と疑問が生まれるようになり、それを調べていくうちに理解を深めることができるようになったと、自分でも実感している。C

●さまざまな人物について学んできたが、その中で共通していたことは「人々を救いたい」という共通の感情である。自らを犠牲にしてまで、恵まれない人々、差別を受けている人々を救いたいと動き出すことのできる勇気を持っていることに感動した。人として強い人なのである。自分はどうなっても構わないから人を救いたいという意志の強さが大切なのであると感じた。C

●なかなか過去に書いたリアクションペーパーを見返すことがないので、改めて見返してみると、自分の信条の変化、学び方の変化がわかるのでとても面白い。調べたことも、自分の言葉で落とし込んでいる。（後半

になるほど）はじめは国試の勉強になる、というモチベーションだったけれど、だんだんとその人物を知ることが楽しくなっている。S

⑥福祉の意味をもう一度考えた

●キリスト教社会福祉では、社会福祉に一番大切であろう福祉に対する心構えを学ぶことができたのが自分にとって一番の収穫でした。S

●この授業は正直、最初面倒くさくて行きたくなかったですが、今はこの授業がこの時期にある理由がわかる気がします。福祉についても一度考えられる内容でした。C

●4年生の最後の授業がキリスト教社会福祉の授業で、改めて福祉のことを基礎から振り返ることができて良かったです。W

⑦理想像

●キリスト教社会福祉の授業を通して、様々な人物の人生について学ぶ中で、キリスト教の教えを福祉に取り入れていくことの大切さ、神の教えに沿って、人としてまっとうに生きることの素晴らしさ、様々な人、環境と出会い生きていくこと、仕事をする事の喜びなど、多くのことを学んだ。様々な人の人生観について知る中で、自分が参考にしたいと思える人物にこの授業を通して出会えた。C

●自分がこの先社会に出て、一人の大人となった時、どんな保育者になりたいのかという理想像を改めて考え直すことができたと思う。C

●授業で取り扱った人々のようになればと素直に思えました。W

⑧私も誰かのために

●私は介護福祉士として働きます。授業で学んだキリストの精神（活躍した人たちの行動）から、利用者一人ひとりに寄り添う、コミュニケーションを大切にしたい人物になりたい。そして、困っている人がいたらすぐに手を差し伸べられるようになりたい。S

●この授業ではやりたいことがあっても必ず壁があり、それを乗り越える自分のなかの強い意志を持つ大切さ

も感じる事ができた。これから社会に出たら壁ばかりだと思うので、常に動くことのない、変わることのない自分のまっすぐな強い意志を持って生きていきたい。また、「誰かのために」という思いが強くあることや持ち続けることで、必ず、誰かが見ていて、そして感じると思うので、私は、将来、「子どもたちのために」という強い意志を持って命をかけてでも子どもたちを守り、そして保育していきたいと思う。C

⑨隣人愛の具体化・実感

●多くの人が努力したからこそ今の福祉の形が出来上がっているということが分かった。名前が残っている人だけではなく、その人を支えてきた周りの人々もいて、それによりこういう歴史として残っているのだと思う。こうした偉人たちは決して自分の名前を残すために頑張ったのではなく、今、自分の目の前にいる人を助けてあげたい…。自分に何かできることがあるのではないかという強い気持ちを持って人々と関わってきたのだと思う。福祉にかかわっていくものとして、こういった人がいたのだということ、自分がどういう思いでこれから働くべきなのかということを考える事ができた。C

●福祉に人生をささげた人たちって本当にすごいと思った。まさに捧げる！利益を考えず、困っている人を助けたいという信念とか使命感とか、本当にすごいと思った。その心の支えにイエス様がいるのかなと思った。「隣人を愛せよ」だと思った。どの人も愛にあふれていると思った。C

●ここで学んだ人物たちは「隣人を愛す」の思いで、「誰かが」ではなく「自分が」と、自ら行動し、考え、試行錯誤しながらも現代の福祉に至るものを築いてきた。ただ理論を組み立てるだけでなく、実践に移し、その熱い思いが時には制度をも、国をも越えたということを学んだ。C

●キリスト教という部分と福祉という部分がどのようにかかわってくるのか最初はよくわからなかった。しかし回を重ねるごとに、キリスト教という側面から人

と寄り添いながら自分の信念を持って人生をかけて取り組んでいるということがよくわかった。自分に与えられたやるべきことは人それぞれ異なっていたが、根幹にあるものは、誰かのために、みんなの、困っている人のためにという部分で共通しているのだと分かった。W

●キリスト教社会福祉で学んだ人物は、だれもが困っている人のためにという心を持っており、キリスト教の教えにある隣人愛と関係していると学んだ。自分の私利私欲といった自分のことを第一に考えるのではなく、他人を愛するような心の持ち方は福祉の原点であると、キリストに関連して学ぶ事ができた。S

⑩よりどころとしての“信念”

●“宗教”というと、私はどうしてもカルト的なものと想像してしまう。もちろんそんなものではないとは理解しているつもりだが、心のどこかで避けようとしていた部分がある。しかし、授業を受けて、実践者たちがよりどころとした宗教とは“信念”だったと思うようになった。人は困難に立ち向かう時、自分のなかに信じるものがなければくじけてしまうのだと思う。相手が大きければなおさらだ。そうした信念があったからこそ、実践者たちは今もなお残るような実践を行う事ができたのだろう。現在、そうした信念、思想を議論することが苦手な人が多いように感じる。私自身、自分の信念や思想が全くないわけではないが、明確に固まっているわけでもない。しかし、それらを明確にし、支援をすることが大切なのだと改めて理解する事ができた。W

⑪クリスチャンの生き様から自分も

●この教科を通して、一人一人の人物が生きてきた時代背景の流れの中で、他人の不幸を自分の生涯を通して支援し、社会に訴え、制度や政策・実践や運動を歴史の中で孤軍奮闘し努力して日本の福祉国家の礎を築いたことを知り、その人たちの心の救い主となったのがキリスト教であったこと。自分を信じ他人を信じ、信念を通し生涯をかけて挺身していった人たちのこと

を学び、自分では何一つできないと思っていた私に、この学校で学んだ4年間の知識や経験から人々の幸福への支援へつなげる役割を少しでもできればいいと思っています。S

⑫価値観の変化

●給料や待遇ばかりを気にして、仕事を行っていくのではなく、自分がどうすれば成長できるのか、また目の前にいる人たちをどのようにすればよい道に導いていけるのか、を考えながら、この先仕事をしていきたいと思いました。「行動」も大切だけれど、「強い気持ち」を忘れずにずっとこの先、進んでいきたいと思っています。C

●自分だけが大変という気持ちは捨て、精一杯働く。ピンチはチャンス！何事にも違う視点から物事を見て、自分の人生にプラスになる生き方をしていく。C

⑬自分も困難に立ち向かう

●キリスト教の考え方が社会福祉につながると分かり、4年生の卒業目前に学ぶ意味は、私たちにキリスト教について学んでほしいからという理由だけではなく、就職しても困難に立ち向かえるように応援していただいていると感じた。C

●現状に腐らず、自分のやりたいことを信じて全うすることがすごいと思ったし、自分も腐らずに頑張りたいと思った。S

●国家試験に出るから覚えなきゃいけないと思っていたが、人物を学ぶことで、自分の考えが今後の人生、生き方にまでつながることを学ぶことができたと感じることができた授業であった。W

●誰一人、失敗なしに成功はしていない。失敗を恐れることはないと学んだ。失敗の次に何かしら次がある。自分で何かしらできることがあると分かった。小さなことでコツコツと積み上げていくことが大切であると改めて学ぶよい機会であったと感じている。W

⑭キリスト教系大学の帰属意識

●「またキリスト教か」という気持ちは、やはりあった。しかし、最後の授業であるし、同時に聖隷クリストファー大学の根底にある理念であるため、クリスト

ファーの学生として大学を卒業するという気持ちもちつつ授業に臨んだ。今後、私の行動や志には、「隣人愛」の精神があり、私の人生を支えてくれることだろう。

W

●正直、名前も知らない人物ばかりであったが、この授業を通して名前を把握するだけでなく、ほとんどの人物に対して何をした人なのかを大まかに理解することができるようになったので“聖隷クリストファー大卒”の社会人としてキリスト教社会福祉の歴史を聞かれてもすぐにこたえられるようになったと思う。C

●「隣人を愛せよ」の気持ちはいつまでも忘れずになりたいと思う。自分の損とか得とかじゃなく、目の前にいる人、側にいる人、すべての人の幸せを願って生きていきたいと思った。そんな言葉ほど簡単なことではないが、人の幸福のために生きることが出来たらいいなと思った。C

●自分は幼稚園に就職するので、「隣人愛」の精神を子どもたちに向けて職務を全うしたいとおもった。せっかくキリスト系の大学に来ているので「隣人愛」や「この子らを世の光に」などといった考えを参考にして、子どもたちと接していきたい。C

●子どものために、一生懸命支援することの大切さを改めて学んだため、就職してからも、愛情をたくさん子どもたちに捧げ、キリスト教社会福祉で学んだ人たちも思い出しながら、キリスト教の大学を卒業したことに誇りを持ちながら恥ずかしくないように過ごしていきたいと思う。C

●福祉に携わっていく人たちはほとんど感性で“自分の素”の部分で対応していくこともあるだろうから、私も自分の良い面を全面に、職場で出していきたいと思う。聖隷の心の『隣人愛』も忘れずに、明るく笑顔でご利用者の心が温くなるような支援ができればいいと思う。この授業で学んだ人に接して、心がきれいになった気がして、大学の最後に、この授業を受けることができて本当に良かった。S

●1年次にキリスト教概論や聖隷の理念を学び、様々

な学びを終えた総まとめとして、最後にこうしてまたキリスト教というこの大学生活の原点に戻れたことはよい終わり方だったと思う。W

●4年生全員が集まる授業が本当に久しぶりで、社会福祉士を受ける他学科の人たちとはよく顔を合わせていたけれど、こども科と介護科の社会福祉士を受けない人たちは会うことが減ってしまっていたので、全員で授業を受けることができて、すごくうれしいし、楽しかったです。S

4) KJ法から読み取れる学生の学びと成果

以上、KJ法の記述から、期末テスト時間中に学生それぞれが、自分自身と向き合い、自分の学びを自分の言葉で表現していることがわかる。学生の「学び」は次の段階を経て変化しているといえる。

- ①なぜこの時期？なぜキリスト教？という疑問
- ②人物を調べることで、知ることが楽しい
- ③「隣人愛」の具体的実践内容、具体像の取得
- ④「自分」の生き方・学びの振り返り
- ⑤本学で学べた満足感・帰属意識の芽生え
- ⑥自分の課題・将来像・使命・決意の獲得

つまり、「キリスト教社会福祉」の半年間の授業を通して、多くの学生は「自分自身」で科目の意義を理解し、学びを深め、課題を見つけ、キリスト教主義大学で学んだ帰属意識を高め、自分の将来設計を立てていた。

4. まとめと考察——「キリスト教社会福祉」科目の意義と役割

キリスト教主義である本学で、2002年度社会福祉学部開設当初から4年生または3年生必修科目で設定されてきた「キリスト教社会福祉」が、来年度から2年生選択科目の開講のみになる。本稿では、これを機に、本科目の経緯を振

り返り、2014年度の実例と学生の反応を分析した。

これにより、社会福祉士養成カリキュラムの制約の中で、本学でもキリスト教独自の教育理念や学部の教育目標を反映させ、「キリスト教社会福祉」を、必修科目として継続していくことは難しい現実が提示された。一方、学生の反応から、キリスト教主義の福祉系大学において「キリスト教社会福祉」という科目は次のような役割を果たしていたことが明らかになった。

①「熱い思い」の継承——「隣人愛」の実感

社会福祉の歴史を作ってきたクリスチャンである先人たちの「熱い思い」（福祉マインド）を、社会福祉養成教育のなかで実感として継承した。

②キリスト教主義社会福祉施設従事者の養成

キリスト教社会福祉のある程度の知識を提供し、関連のキリスト教主義社会福祉施設従事者へと一連の養成の役割を果たした。

③自己成長の促し—アイデンティティ形成

学生たちは授業を通して、先人たちの実践を知る→「隣人愛」の具体像→「自分」と向き合う→「愛されてきた自分」との出会い→帰属意識→他者を慈しみ・愛する「隣人愛」の再認→職業意識・使命感の形成を行なった。つまり、4年間の学びを振り返り、「隣人愛」「ディアコニア」で表現されるキリスト教主義社会福祉大学の根底思想に基づく自分のアイデンティティを統合した。この自己変革と自己成長こそキリスト教教育の成果であり、本質なのではないだろうか。

以上、本学で展開してきた「キリスト教社会福祉」科目について述べた。大学や学部の独自性は、組織的に守らなければ成立しない。社会福祉士養成指定科目の教員担当負担が増加する中、大学の特色を出すことを担当者の力量や努

力に課すだけでは、教員はますます疲弊していく。

建学の精神である「隣人愛」を学生が実践の基軸として確認して卒業していくこと。その卒業生達が、現在、先人たちと同様、その意志を貫き通して、利用者たちに「寄り添い」続けていくこと。また、2年生の選択科目も、組織的な支援を受け、多くの学生の受講を促し、キリスト教に根ざした福祉マインドを形成させること。筆者もクリスチャン教育者として、その役割を十分に果たすこと。これらが他の社会福祉士養成校にはできない、キリスト教主義大学社会福祉学部における本科目の存在意義なのではないだろうか。本科目ひとつの教育実践で終わるのではなく、学部全体で本学独自の教育の在り方を相互に検討しあい、それぞれの立場から協働し、一貫性をもったキリスト教主義教育ができることを願ってやまない。

注

- 1 社団法人日本社会福祉士養成校協会（社養協/JASCSSW）社会福祉の学校 http://jascsw.jp/jascsw_members_list.html 打出し 20160105
- 2 日本カトリック学校連合会 加盟校紹介 <http://www.catholicschools.jp/member/> 打出し 20160105
- 3 藤女子大学（北海道）、仙台北百合女子大学（宮城県）、上智大学（東京都）、京都ノートルダム女子大学（京都府）、ノートルダム清心女子大学（岡山県）、聖カタリナ大学（愛媛県）、長崎純心大学（長崎県）
- 4 キリスト教学校教育同盟 加盟校紹介 グレード別から選ぶ（大学） <http://www.k-doumei.or.jp/> 打出し 20160105
- 5 例えば嶋田啓一郎、阿部志郎、市川一宏など。
- 6 秋山智久（1997）『現代キリスト教社会福祉：意義・現状・課題：全国調査報告書』日本基督教社会福祉学会
- 7 新野三四子（2010）「キリスト教社会福祉教育における専門ワーカーの育成のあゆみと課題」『追手門学院大学社会学部紀要』第4号，131-146
- 8 岡本榮一（2005）「巻頭言 失敗したか、キリスト教精神のバトタッチ」『キリスト教社会福祉学研究第38号』p. 2-p. 3
- 9 新野三四子（2014）「第15章キリスト教社会福祉の養成・教育・専門職のあゆみ」日本キリスト教社会福祉学会編『日本キ

- リスト教社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房 p.387 (p.387-p.428)
- 10 正式見解には含まれていないが、ディアコニッセ養成のための学校がこの頃設立している。教育内容は介護専門学校の礎となっている。稿を改めて述べる。
 - 11 『SEIREI CHRISTOPHER COLLEGE 2002年度 履修要項・シラバス 社会福祉学部』p.10
 - 12 『SEIREI CHRISTOPHER UNIVERSITY 2009年度 履修要項・シラバス 社会福祉学部』p.10
 - 13 室田保夫 2006『人物でよむ近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房
 - 14 上述13のテキストに掲載された30人。岩永マキ、石井十次、矢島楯子、横山源之助、原胤昭、石井亮一、野口幽香、留岡幸助、片山潜、奥村多喜衛、岩田民次郎、小橋実之助、井上友一、渋谷栄一、山室軍平、渡辺海旭、八浜徳三郎、久布白落実、生江孝之、小河滋次郎、山田わか、長谷川良信、賀川豊彦、佐伯祐正、奥むめお、井深八重、岩崎武夫、田内千鶴子、浅賀ふさ、糸賀一雄
 - 15 毎回出席代わりに提出させたリアペを一人15回分を教員がまとめ、授業最終回、あるいはテストの時に返却し、自己成長を確認させる。筆者は1年生の時から、他の授業も同様な方法を取り、自己の振り返りをさせている。
 - 16 「事実・感想・分析」という項目は1年生の時から筆者の授業リアペのスタイルである。「①事実」には「授業の概要(要約)」「自分が新たに発見したこと(客観的事実)」、「②感想」は「新たに発見したことに対する感想」、「③分析」には「その感想が生じた自己分析(性格・生い立ちとの関わり・自分の傾向)、今後の自分の学修の課題」という説明書きがある。筆者は、この3本柱が、現場での記録の基本であると考え、授業のたびに記入させている。
 - 17 1年生春に「ソーシャルワーク総論Ⅰ」秋に「ソーシャルワーク総論Ⅱ」を筆者一人が担当している。毎年、「ソーシャルワーク総論Ⅰ」のレポート課題として、自分の半年の自己成長の点検のほか、「なぜ自分は今、聖隷クリストファー大学社会福祉学部で学んでいるのか」について、自分史を書かせて過去・現在の連動性を考えさせている。それを踏まえ、「4年生になった自分に伝えたいこと」あるいは「将来どのようになっていたいか」と、4年後の人生設計を立てられるように試みている。そのレポートを4年間保管し、4年間の学びの最後のこの授業で返却している。授業でできなかったときは、4年生のオリエンテーションなどで返却した。
 - 18 テストの末尾に、次の3点を注意書きとして記した。①以下、問の番号を、それぞれ記載し、区分して記述してください。裏面・2枚目使用可 ②リアペと1年生のレポートは持ち帰ってOKです。③人生の中で「学校」で行う最後のテストかも…!! 頑張ってください。

【参考文献】

秋山智久 2007 『社会福祉専門職の研究』 ミネルヴァ書房

阿部志郎 1989 『福祉実践への架け橋』 海声社
一番ヶ瀬康子他編 1990 『社会福祉の専門教育』
光生館

坂本道子 1998 「キリスト教社会福祉実践」小
田兼三監修 『聖書と福祉－共生の社会をめざ
して－』 エマオ p.109～p.144

新野三四子 2007 『福祉マインド教育実践論』
ナカニシヤ出版

杉山博昭 2003 『キリスト教福祉実践の史的展

開』 大学教育出版

田代不二男 1983 『社会福祉とキリスト教』 相
川書房

日本キリスト教社会福祉学会 2014 『日本キリ
スト教社会福祉の歴史』 ミネルヴァ書房

日本基督教社会福祉学会 1992 『キリスト教社
会福祉の証言』 聖恵授産所

日本キリスト教社会福祉学会 1988 『社会福祉
実践とキリスト教』 ミネルヴァ書房

日本基督教社会福祉学会 『基督教社会福祉学研
究』 1973年～（1999年32号～『キリスト教
社会福祉学研究』と改名）